

国立大学法人北見工業大学と連携・協力に関する協定を締結

企画室

2012年3月22日、「国立大学法人北見工業大学(以下、「北見工大」と)と独立行政法人土木研究所寒地土木研究所(以下、「寒地土研」と)との連携・協力に関する協定」(以下、「連携・協力協定」)を締結しました。

「連携・協力協定」は、北見工大と寒地土研の相互の研究開発能力及び人材等を活かしながら連携・協力することにより、研究開発と教育の推進及び良質な社会資本の効率的な整備並びに北海道の開発の推進に寄与することを目的として締結されました。

連携・協力事項には、共同研究をはじめ、学生の教育及び研究者の資質向上、研究交流、研究施設・設備の相互利用が掲げられました。具体的には、これまで実施してきた土木分野の共同研究を中心としつつ、幅広く新たな分野での共同研究や公募型研究への共同参画などにより、研究活動の充実を図ることとしています。また、寒地土研による北見工大学生のインターンシップ受け入れ等を通じた教育指導や、同大学の講師等として研究者を派遣することにより、同大学の学生教育に寄与できるのに対し、同大学からは、寒地土研が実施する研究への指導、助言を頂くことにより、寒地土研の研究者の資質向上が期待されます。さらに、講演会やシンポジウム等の共同開催及び研究資料や研究情報の交換等による研究交流を推進するとともに、両機関が所有する研究施設・設備を相互利用することで、研究予算を有効に活用できるほか、研究交流や共同研究への発展が期待できます。

北見工大第1会議室で行われた連携・協力協定の調印式では、鮎田耕一北見工科大学長と川村和幸寒地土研所長により、協定書への署名及び協定書の交換が行われた後、双方から挨拶がありました。鮎田学長は北見工大の創立当初から寒地土研出身者が同大学で教鞭をとっているほか、寒地土研の研究者が北見工大で学ぶなど、両機関の間では今回の連携・協力協定を締結する以前から深い関係があったことを紹介した上で、「今後は土木工学だけではなく、その他の分野でも組織としてのつながりを深めることで、両機関のより一層の発展が期待される。」との考えを示されました。

川村所長は、これまでも寒地土研が開催する技術

者交流フォーラムや共同研究等を通じて北見工大から御指導及び御支援をいただいていることに感謝の意を表しました。また、寒地土研は寒冷地土木技術の研究及び技術開発を担う我が国唯一の研究機関として、道路、河川、農業、港湾、水産という幅広い分野において、積雪寒冷地の公共事業を実施する現場に密着した技術開発を行っていることを紹介した上で、「現在は構造物の耐久性や利便性、長寿命化など土木技術に求められるニーズが多様化、高度化しており北見工大との連携・協力により、現場に密着した技術開発を促進したい。」と述べました。

今回の連携・協力協定の締結により、北見工大と寒地土研の連携・協力関係がより一層強化され、共同研究の拡大など、取り組みの具体化が期待されます。

(文責：星 卓見)



協定書に署名する川村所長(左)と鮎田学長(右)



協定書の交換の様子